

教科目名 哲学特論 (Special Lecture on Philosophy)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ , 学習保証時間 22.5 時間)

担当教員 : 堀 栄造

授業の概要			
現代哲学の主潮流の一つを成すドイツの哲学者エドムント・フッサールの創始した現象学の学問的方法論である現象学的還元が、どのように着想され、どのような構造をもち、どのような意義をもつのかを学ぶ。授業全般を通じて、質疑応答などを通して相互に発言し合う機会を多く設け、活発な議論の展開となるように努める。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 学問的方法論は学問にとって生命線とも言うべきものである。フッサールの現象学の学問的方法論の形成を学ぶことによって、学問にとっての方法論の意義や重要性を理解する。(定期試験)			
(2) 哲学的文章を通して西洋の思考および西洋的文化に直接接し、地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	心理学主義的立場 反心理学主義的心理学 反心理学主義的イデア学 現象学的イデア学 還元思想の萌芽の生成 実在的次元からの脱却の萌芽 現象学的反省の可能性	○ 心理学主義的立場について理解できる。 ○ 現象学的イデア学について理解できる。 ○ 還元思想の萌芽の生成について理解できる。 ○ 実在的次元からの脱却の萌芽について理解できる。 ○ 現象学的反省の可能性について理解できる。	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 空想における反省 現象学的還元の着想 現象学的統覚 現象学的エポケーの着想 反省領域全体の非顕在化 志向的構成と存在的現象	○ 現象学的還元の着想について理解できる。 ○ 現象学的統覚について理解できる。 ○ 現象学的エポケーの着想について理解できる。 ○ 反省領域全体の非顕在化について理解できる。	【理解の度合い】
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		ノートをしっかり取り、積極的に発言すること。	【総合達成度】
教 科 書		堀栄造著、『フッサールの脱現実化的現実化』、晃洋書房、2006 年。	
参 考 図 書		堀栄造著、『フッサールの現象学的還元』、晃洋書房、2003 年。	
事前準備学習		事前に教科書を読んでおくこと。	
関 連 科 目		哲学特論、哲学概説、倫理。	
総 合 評 価		定期試験により評価する。評価が 60 点以上を合格とする。	【総合評価】 点